

広がるマスタープランの可能性

日本が世界中で支援を展開するマスタープランには、その都市の地理的・社会的特徴などを踏まえた知恵や工夫が詰まっている。日本国内での経験を生かし、一歩進んだ視点を取り入れながらマスタープランを策定している2つの事例を紹介しよう。



広域の視点から

沿岸都市と内陸を結ぶ発展の輪

人 口が3億人を超え、高い経済成長を見せる西アフリカ地域。しかし、人口と経済活動が集中するギニア湾沿岸に比べて、内陸部の開発が進まないことが、地域全体の発展の重しとなっている。原因の一つは、植民地時代に整備されたインフラが、天然資源を欧米に輸出するために設計されていたことだ。一部の輸出ポテンシャルに優れた国や都市だけが成長するのではなく、国全体、地域全体に経済効果を波及させていくことが、持続的な成長には欠かせない。

そこで進められているのが、回廊開発プロジェクトだ。中でも西アフリカ成長リングは、ギニア湾の沿岸都市と、より内陸の地方を結び付け、コートジボワール、ガーナ、トーゴ、ブルキナファソの4カ国をまたぐ回廊（重要幹線）の開発を通じて、地域全体の経済成長につなげる試みが進んでいる。

成長の核となるのはアビジャン、アクラ、ロメなどの輸出港を持つ沿岸部の大都市だ。これらの都市は経済活動の中心地で、輸出品の加工に必要な材料や、都市に住む人たちの食料や日用品などの一大消費地でもある。しかし、現在は食料の多くをアフリカ外からの輸入に頼っているため、経済成長の恩恵が地域に十分に行き渡っていない。

沿岸都市が内陸地域からの労働力を受け入れ、内陸地域は

農産物を沿岸都市に供給する循環が生まれれば、互いのニーズを満たしながら発展を共有できる。そのためには、都市部の産業育成や地方部の農業生産性の向上といった個々の取り組みと同時に、内陸地域の拠点となる都市と沿岸都市を結ぶ回廊インフラを構築し、互いの開発ポテンシャルを生かせる環境づくりが不可欠だ。

2015年に始まった回廊開発マスタープラン策定プロジェクトでは、かつて日本が地域間のバランスを踏まえた産業政策と並行してインフラを構築した高度経済成長期の国土開発の経験に基づき、ギニア湾沿岸と内陸を結ぶ回廊「成長リング」の開発ビジョンを描き、戦略的なインフラ投資によって地域全体の産業を活性化させる包摂的な開発を目指している。インフラだけでなく、地方開発だけでもない。地域全体の成長に向けて、長期的な視野での開発計画の策定が進む。



道の状態は良いが、交通量はまだまだ少ない。沿線都市の発展も、地域の活性化には欠かせない



トーゴの首都ロメと内陸国ブルキナファソの首都ワガドゥグを結ぶ道。人口の8割が農業に携わるブルキナファソにとって、交易の活性化は今後の成長に不可欠だ



防災の視点から

災害に強い都市交通を整備する

ネ パールの首都カトマンズがあるカトマンズ盆地の人口は、内戦から逃れようとする人々の流入もあり、1991年の106万人から2011年には250万人と急増した。ネパール政府としての盆地全体の開発の方向性が定まっていなかったため、交通インフラが整備されないまま都市が無秩序に拡大し、交通渋滞や環境汚染の悪化を招いている。

日本は1993年にカトマンズ盆地の都市交通マスタープランの策定を支援したが、策定当時から社会経済状況が変化しているため、2014年に新しい総合都市交通マスタープランの策定を目的としたプロジェクトが始まった。

プロジェクト進行中の昨年4月、マグニチュード7.8の地震がネパールを襲った。マスタープランの土地利用計画や道路・公共交通計画などはほぼ完成していたが、震災を踏まえて、災害に備える力や災害から立ち直る力を兼ね備えた「レジリエント」な交通体系を導入するため、マスタープラン全体の見直しを行うことになった。

カトマンズ盆地では液状化の危険性が指摘されており、中長期的に危険地域の土地利用を転換する必要が生じているため、災害時のリスクを考慮して土地利用計画の見直しを進めている。また、多くの橋が被害を受けたことを踏まえて、

「カトマンズ盆地における地震災害リスクアセスメントプロジェクト」では、橋の構造や被害状況を調査して危険度を評価している。今後はこの結果を基に、橋の落下による交通遮断リスクを踏まえた計画の見直しを行う

ほか、震災発生時の緊急車両の通行や物資の運搬などのルートを決めた緊急輸送道路網の提案を行う予定だ。

さらに、盆地内の主要道路であるカトマンズ〜バクタプル間道路（KB道路）に亀裂や段差が生じたため、約600メートルにわたり応急復旧工事を実施。今後は、再び地震が発生した際の被害を最小限にするため、日本の知見を生かしたKB道路の耐震性強化設計を行う予定で、学術関係者と情報交換をしながら調査が進められている。設計ノウハウを他の道路にも応用し、カトマンズ盆地全体の道路耐震性の強化につなげる狙いもある。



カトマンズ盆地中心部の交差点。警察による交通整理が行われるも慢性的な渋滞が発生している



応急復旧工事を実施したKB道路